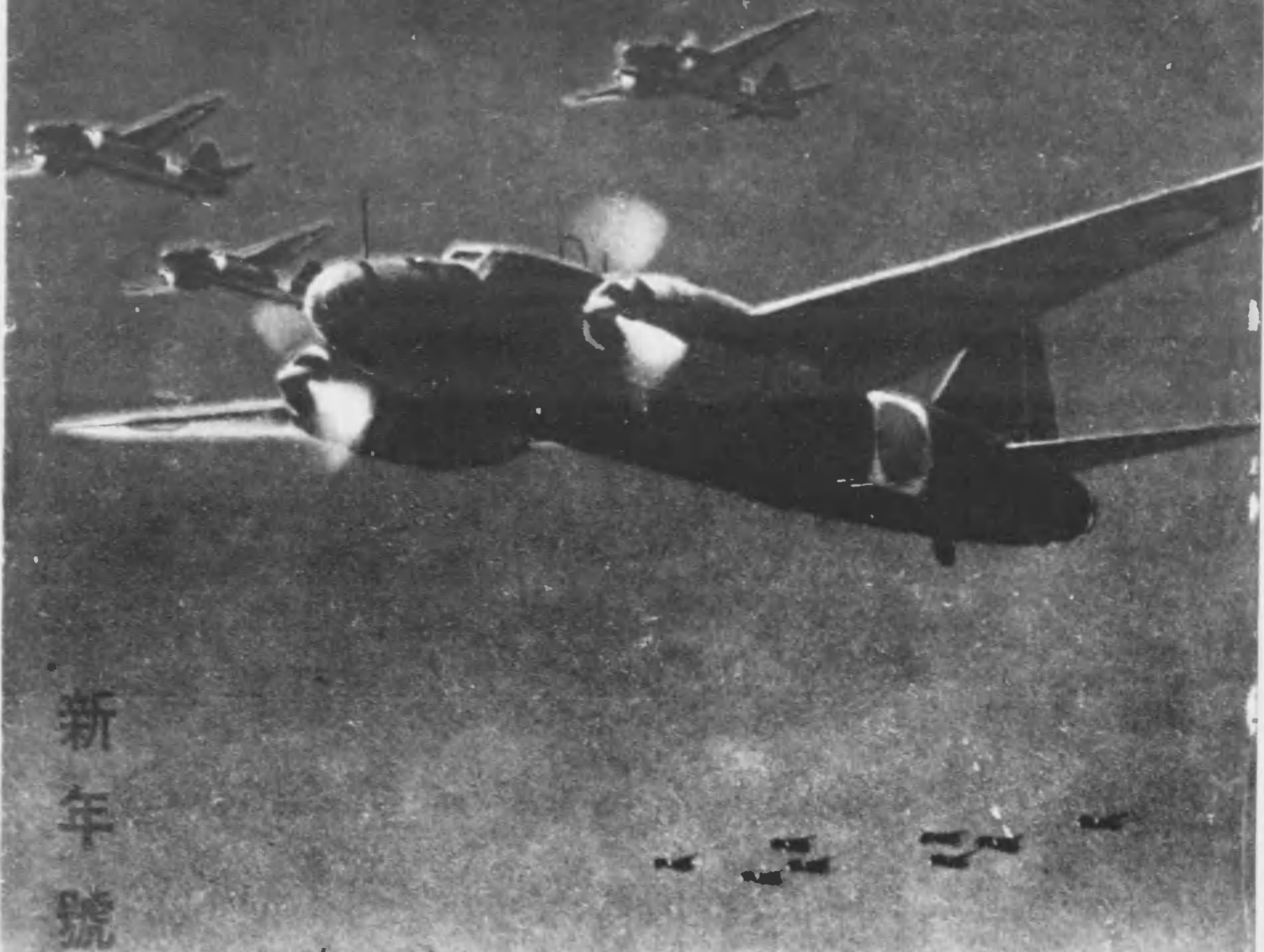
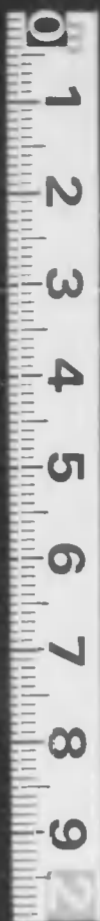


寫眞週報

情報編輯局
一月五日・第三百三十一號



新年號



寫眞
週報

情 報 局 編 輯

一 月 五 日 · 第 三 百 三 十 七 號



新
年
號



**皇太子殿下
御十二の新春を
迎へさせらる**

皇太子殿下には、御めでたくこのたび御十二の新春をお迎へあそばさされました。

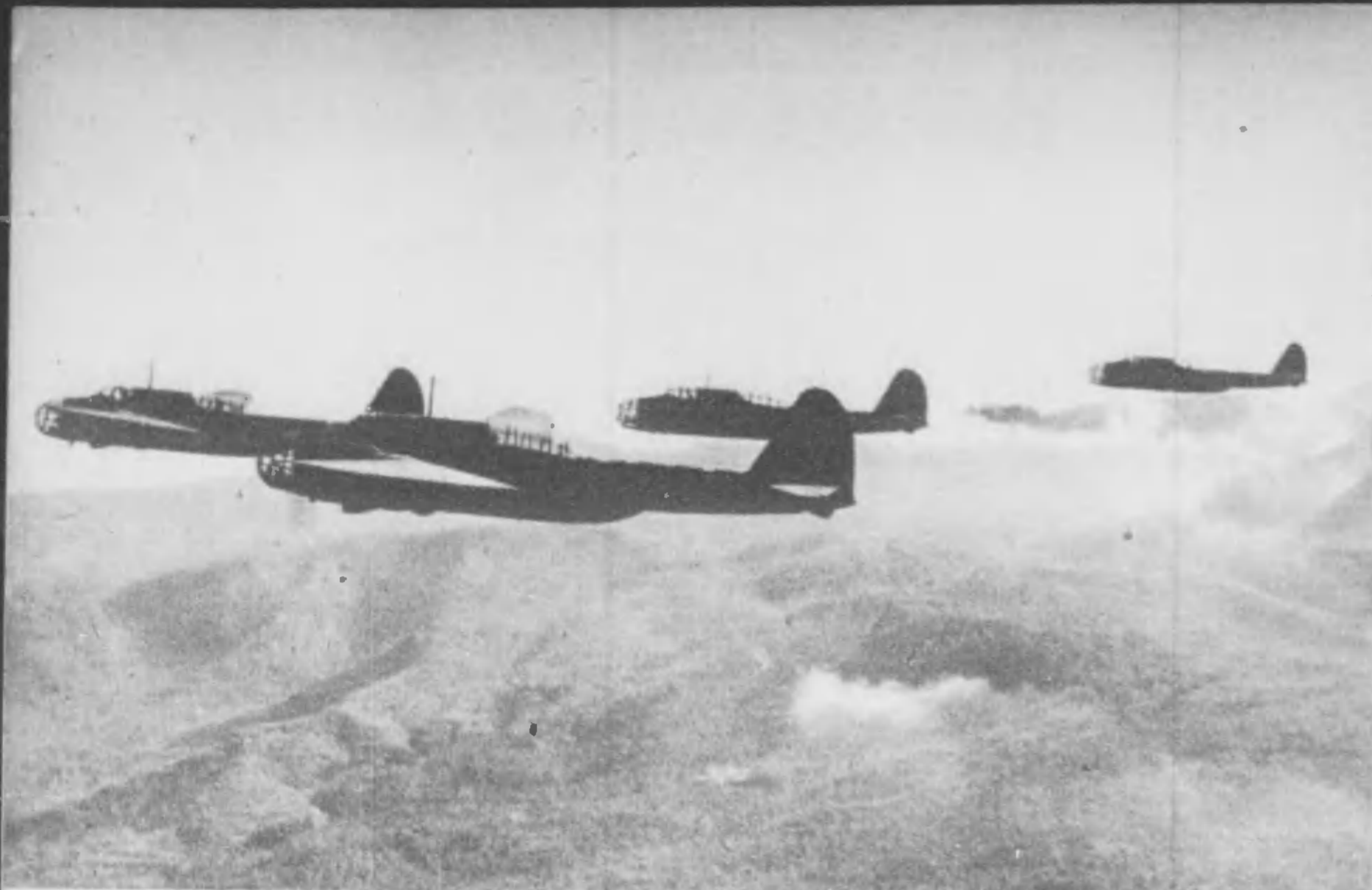
御天明の御天性とともに、日の皇子さまがいよ／＼御すこやかに御成育遊ばされますことは

天皇陛下、皇后陛下をはじめ御事りわが皇宮の上の御喜びと舞しますが、われら一億國民にとつても、限らない喜びであります。

たいまは学習院初等科第四學年に御在學の殿下には、御幼學に御體練に、また各種學校、軍醫工場など各方面の御見學に、御いそしみ遊ばされますが、殊に、複製航空機の御製作、御操作には特別の御興味を御もち遊ばされ、昨年五月一日には、長くも艦ヶ浦並びに土浦海軍航空隊に行啓、親しく海軍機に御搭乗あらせられて前線將士の勇戦を傳はせられたと漏れ承ります。

新しい年とともに、いよ／＼米英撃滅の決意を固めるわれら一億にとつても、また、アジア十億の民にとつても、日の皇子さまこそは、希望に輝く御光であらせられます。この御光がますます／＼明らかに輝きまされ給ふかぎり、戦ひの前途もいよ／＼希望にみち／＼てゆくこととあります。

藤宮内者



き巻を塵砂にちやの風疾 はらか地甚ぬらやけ明だま
員班道程軍海口親 影機 だ撃出が驚海の殺必敵求 てげ上

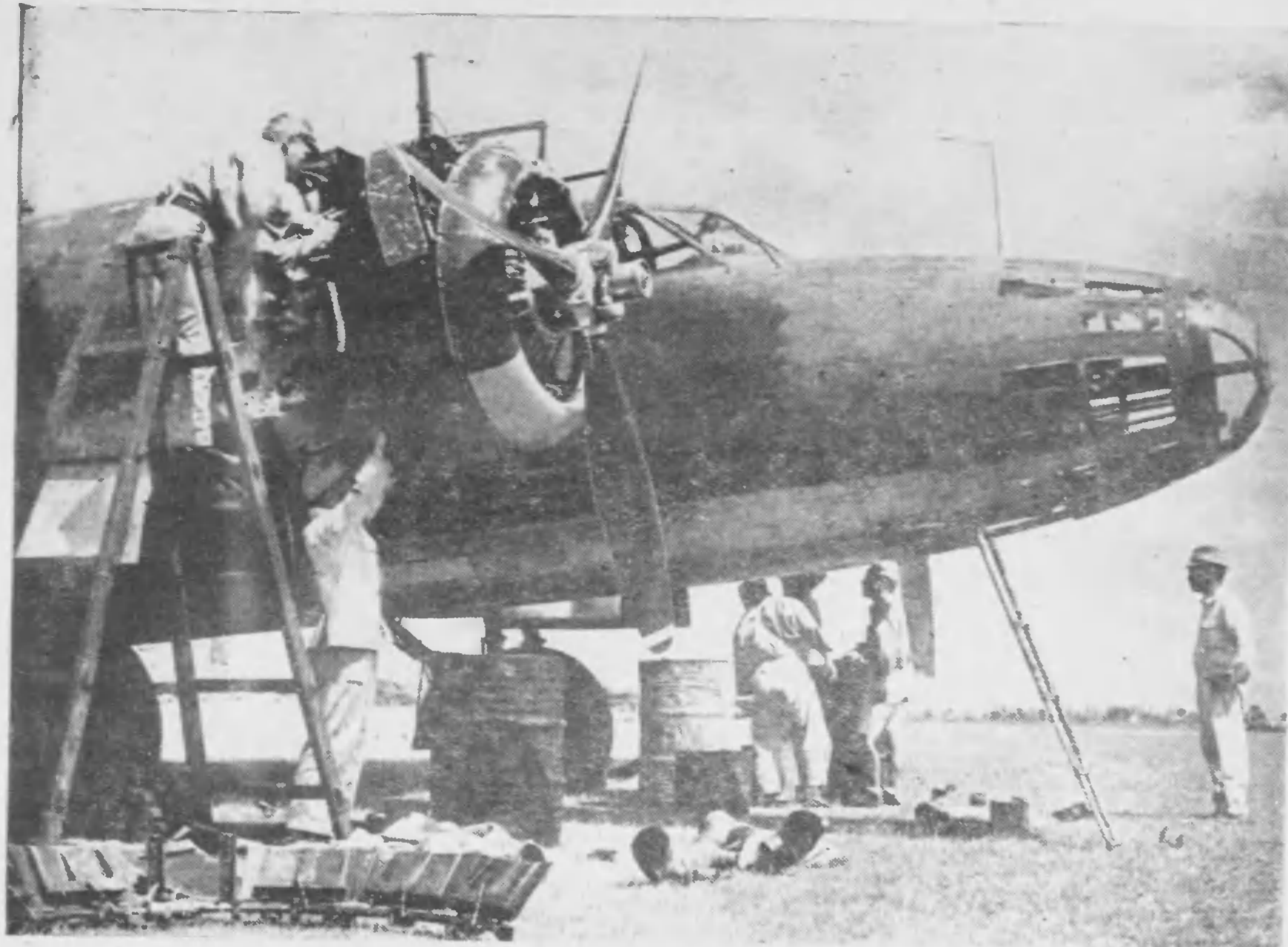


つ張を翼脚の々堂 いなもみ休も月正はに揚戦血の空
員班道程軍陸本殿 影機 だ行撃揚洲液も日今は驚陸 て

す撃出々堂驚荒の海陸がわ

今年こそ反攻の敵を撃滅せん





「まじりさき」に多い任務の暇には野菜をつくり豚を飼ったり、自ら自給する勇士の頼もしいところだ。

「はせせるをせよ」それは人知れぬ苦勞を、日夜すみなく戦ひぬいてゐる基地の地上部隊だ。敵機の襲撃に備へ一秒も目を離さない射撃監視隊、いつなん時でも射たんと構へる高射砲隊、連絡に、指令に、火警を散らす無電送信隊、出動用意の彈藥補給に急ぐ輸送隊、さらさらまた、針の束のやうな被弾の痕に輝く武器を磨り、故障に激しい出動回数を示す機體の修理や整備に必死な作業隊、これらの隊の血と汗が渾然一つになつてこそ、持ちこたへる大戦果が生れる。

山の決戦場に基地を守り、天理ける陸路に心おきなく戦はせる「はせせるをせよ」の心を今年の一億の心としよ

熊本陸軍報道班員

「二分でも早く、正確に」細かく多い部品の整備も手分けの作業に臨んで、ガンガン照りつける日光の直射も何んその、射撃監視隊の闘志は燃えて...

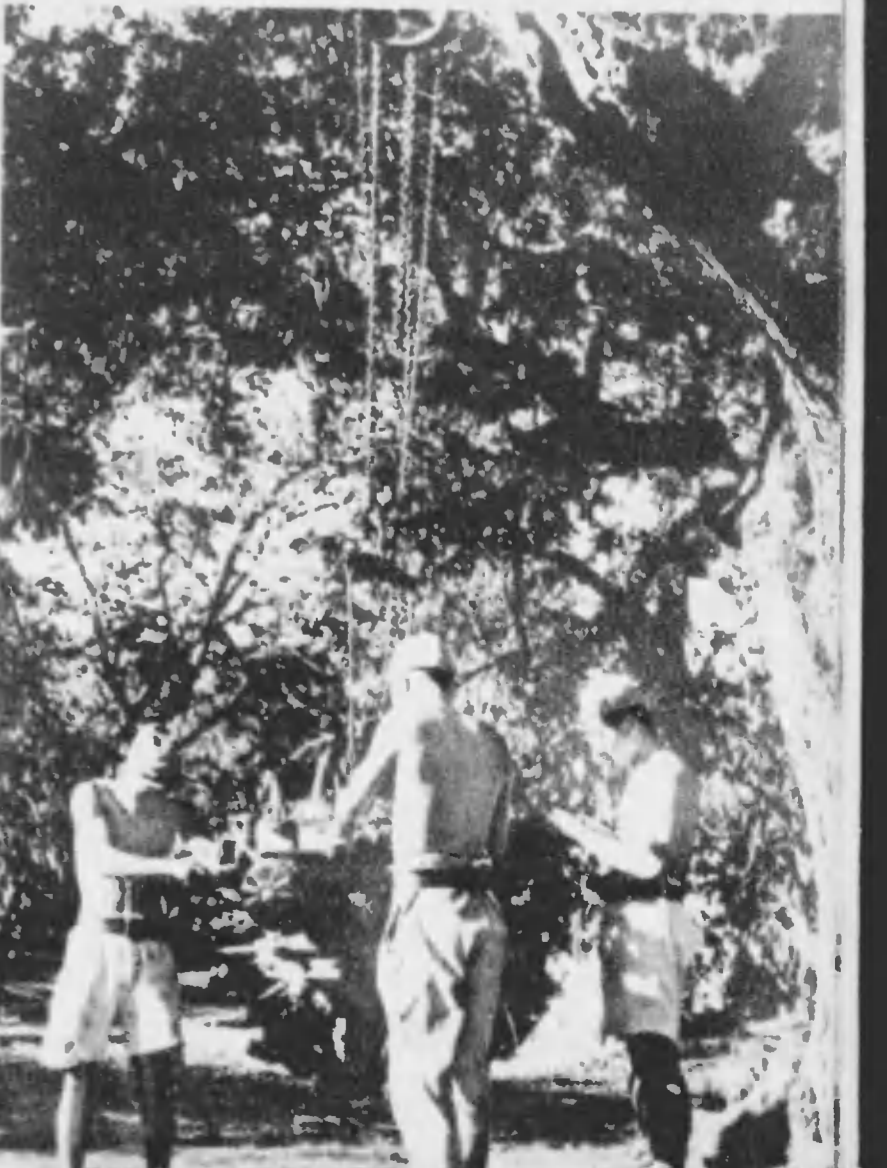


の驚るせば総 み込氣意

地基〇〇線一第方南

「こいつを敵陣のまんなかへ落してくれ」機送隊の囁きはこれだけだ。

「こいつを敵陣のまんなかへ落してくれ」機送隊の囁きはこれだけだ。





→ 幸島の小舟を二隻、三隻と大船の備出に女子青年團の活躍―埼玉新市地村



⇒ 重工業の増産に協力する埼玉新市地村少年團のヨイコトモたち



⇒ 田舎のお友達に負けるものかと、公井待遊所の補修に一生懸命な東京府四谷第四少年團



⇒ わが無敵鐵獅子の眼目製作に寸暇も惜しむ東京府浅草第一女子青年團の團員



⇒ 學校に災難をうけて、大東亞の増産に協力する埼玉新市地村の青年團員

大日本青年會では、舊十二月八日、大東亞戦争二週年の日から、一月九日、中華民族の統一の日まで、全長千五百里の團員を動員して、大東亞青年團の起運活動を展開し、今年こそは、大東亞の増産に協力することを、地方々々の各單位の宣傳に備えて、上、改良や新製品、増産や軍需品ならびに輸送力の増強等に、若い力をこめて協力することになり、

この運動は、昨年十一月、日滿華三國の青年代表によつて行はれた大東亞青年指導會議の決議に基づくもので、同じ期間中、わが國だけでなく滿華兩國でも青年の起運活動を行つてゐるのです。大東亞



二 街頭に立つて、新米を手に人々に配る青年たち。老若男女一様に多くは熱心である。



一 敵が誇る糧食を、たたく負けるものか、計量機で正確に大衆に配る。



自大東亜の飲食満洲は今年大事件
 農民の救済は出づる青年
 團(滿洲)撮影 滿洲國通信社
 満洲國 中華民國
 満洲國 中華民國
 華民統) 撮影 同盟通信社

青少年の中心となつてゐる日滿青年若人
 たちが、同じ日、同じ時、がっさり肩を組ん
 で大東亜の黎明に、戦争完全の力強い雄
 叫びをあげてゐるので、大東亜の青少年
 は大東亜の力であり、大東亜の力、その大東
 亜青少年の中心となつてゐる日滿青年少年
 は、これから後ますます、力をつけて、戦
 争に勝ちぬく強い力とならうではありま
 せんか



二十 月の上旬、朝霧をきつて黎明運動に燃せ参じた青年達の奮闘ぶり。



銃後の皆さんお元氣ですか

詩

慰問文

田島 元美

遠い懐し内地から
海越え山越え幾千里
遙々届いた慰問文
抱いて御禮をいひました
椰子の葉陰にジャンクルト
ホッと一息する時に
皆で讀んだ慰問文
皆で聞いた慰問文
倒れた戦友の枕邊で
涙で讀んだ慰問文
兵隊さんよしつかりと
はげますヨイコの文字の跡
内地の香り誠心に
戦友達と皆して
銃後のご苦勞感謝しつ
やそぞ明日の空撃を

禿 鷹

松尾 榮

おどろなる國を
おどろなる國を
おどろなる國を
おどろなる國を
おどろなる國を
おどろなる國を
おどろなる國を
おどろなる國を
おどろなる國を
おどろなる國を



雄秀井坂小 生先ン子李

俳句

名月の椰子に兵舎はみな低く
月背し部隊に遠き歩哨線
月の海へだてて澄めるキャピテの
灯
霧散の散び秋の灯に短る
戦友を持つ背にストーブ盛んなる
時雨とくや偵察日記繰り下ら
霜晴れやみ旅は山を野をすくむ
洋燈の灯温かきかも夜の秋
野風風月高き月浮ゆる

短歌

機達は山本元帥に續けてふ慰問文讀みて心足らへり
ふるさとの灯りを離れ大陸のラムプに馴染むおほかた二年
戦闘過ぎて昇ぶる心抑へつ敵逃けし街の夕映えに入る
ふかみ行く信濃の秋を想ひつりんどうの花の便りを讀みぬ
營庭のマンゴリーの木の實よく熟れて風なき今宵も背立て赤ぢぬ
ふるさとの秋はゆたかかと年老いし母の便りを今日もをろがむ
はろかなる曠野の土に伏す古子の夢路におくれゆりかどの唄
霧うごき展を衣に立つ歩哨しはしあはれて又かくれたり
堪へ難く苦しき時も皇軍の兵の矜りをわれ保ちをり
戦ひは南に西に進めども戦はぬ戦ひ北の護りは
通信を守りてわれらも共にあり軍民一致の満洲の春
限りなき大御光にひたりつゝ菊の佳き日に吾は銃とる
銃れてもなほとまざる道ありて大和島根は永久にゆるがじ

勅題 海上日出



太平洋の波濤を眺つて堂々〇〇に向よわが輪船射上にて

勝利を決する年

今年こそは世界戦局の山である
敵の總反攻を粉砕し、敵の企圖を挫折せしめて、勝利の大勢を決すべき年である
飛行機をつくり、船をつくり、食糧をつくることは、國民全體の責任である。食糧をつくることは、よそからこれを運ぶに要する船隻を節約することに於ける。船隻が浮けば、軍需資材を多く運ぶことになる。飛行機が増産されるといふ結果になる。飛行機を多くつくることは敵の反攻をうち破り、またわが交通路を安全ならしめ、以て銃後の生活を安らかならしめることにもなる。船をつくることは、あらゆる物資の有無相通をはかり、戦力を増強し、大東亞の建設をおし進めることとなる
今年こそは勝利を決する年である。そして、その勝利を決するものは一億國民である。天下の大勢が戦局を決するといふなかれ。天下の大勢は、われら一億國民が動かすのだ

南方の青年も起ち上つたぞ

「南方の住民は、無智で怠惰者だ」

大東亞戦争のはじまる前は、よくこんなふうにいへられたものです。これは東亞をいつまでも搾取しようとする米英蘭などが、住民を無智のままほつたらかしておいた方が無限の寶庫から資源を奪ひあけるのに、都合がよかつたからでした。その證據には、前ボルネオ總督ハガも「安らかに眠つてゐる民をわざ／＼掃り起すやうなことはしなかつた」と白状してゐるほどです。

一度、皇軍が八紮を宇とする大理想をもつて現地住民を指導するやうになつてから、住民の性質はすつかり變りました。いや、變つたのではなくて、東亞の民の誇りに目ざめたのです。教育に、勤勞に、雄々しく起ち上がつたこの青少年と手を携へて、明日の大東亞をみんな揃つて築かうではありませんか。

東亞を築くには、まづ皇主日本に學ばうと、明日のマライ情事者たちは、防具もケリとしめて、いざ南島の神古

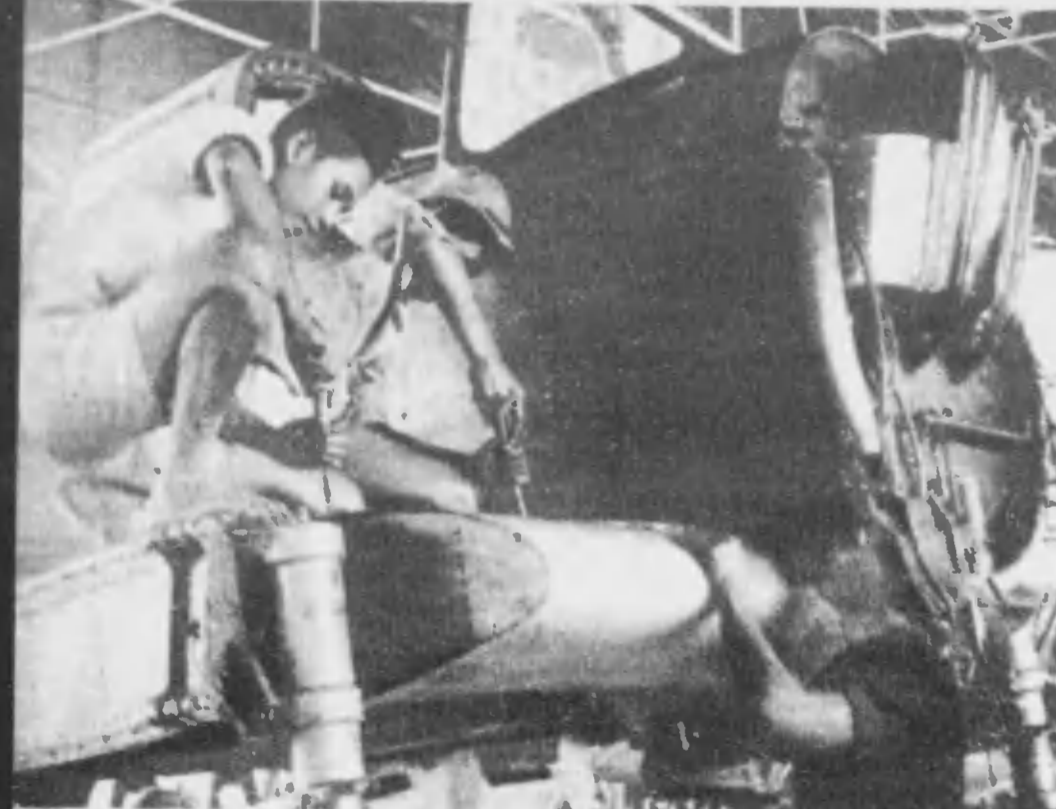
四十キを七時間で既足行進して、息切れもしない頑母しいボルネオの青年
 模範の訓練は、わが軍社にもまけないくらゐ
 撮影 同國通信社



ガタタチもお手練ひと、マライのボーイが昭南島で勤勞奉仕、働くたのしさに、白い歯をにっこりぞかせながら
 撮影 同國通信社



日本の強さは？ 講義にきゝ入るタイタイ訓練所の若人は、獨立し北島の未來を誇ふだけに、敵も火と煙をる
 米住野村駐在所
 撮影 同國通信社



無智といはれたいインドネシアの少年でさへ、むづかしいわが軍社の準備を見事にしかも素早く仕上げてゆく
 模範の訓練は、わが軍社にもまけないくらゐ
 撮影 同國通信社

特に力を入れた指導をうけてゐる比島タイ訓練所の若人は、食糧自給に今日も土にまかれ、汗にまみれて……



兄弟戦決

照準器

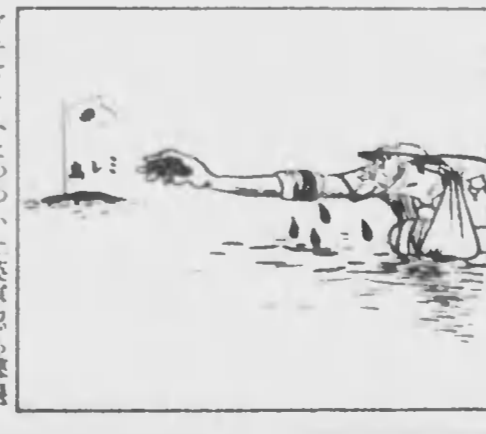
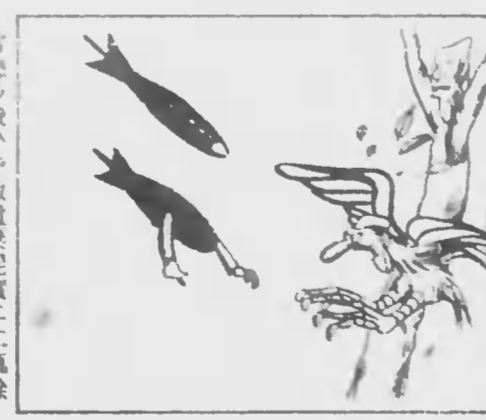
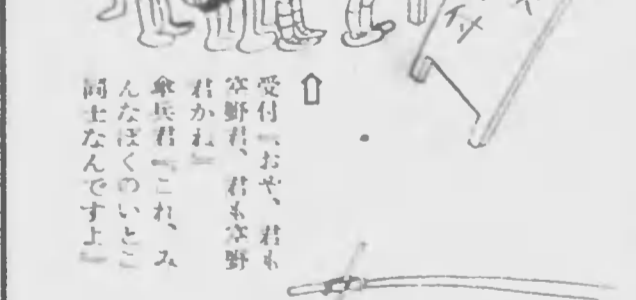
大東亜戦争 漫画 山根

文 野村胡堂
 長男 新 健
 次男 余 健
 三男 余 健
 四男 余 健
 母 余 健
 雷 虹 雲

雲兵君「兄さん、お友達のお話、どうして兄さんおぼろげな顔をしてるの？」
 雲兵君「兄さん、お話をきいて、おぼろげな顔をするのよ。おぼろげな顔をするのよ。」



雲野家の初等



大東亜戦争漫画日誌

石川 進介



米鬼英鬼は9に下りて

張切り 隊別ルーモチ

乱暴で手がつけられないので有名だったチモール族も、皇軍にはすっかり感服し、チモール別隊を組織してお手付けしてあります。

守備部隊の目をかすめてもぐりこんだ敵のスパイ退治の時には、このチモール族が力いっぱい協力したので、根こそぎ捕へることができました。また軍警委員のラハタオ君といふ隊員などは休みの日にも家へは歸らずに、歸つてはどうかとすゝめられても「自分は日本の軍人だ。皇軍將兵と同じやうに、米英撃滅までは断じて家に歸らない」といつて、忠勇なわが將兵を逆に感心させた話もありました。

最近このチモール島にも、しつこく敵機が來襲しますが、そんなことでへこたれるやうなチモール族ではありません。あんな敵とんぼ何かがはいと、ますく元氣に頑張つておます。

さてみなさん、このチモール族に負けず私たちも今年を戦ひぬかうではありませんか。

米鬼、英鬼を退治して、腹へちどきだ
 敵機の一員となつたよるごびに輝く
 陸で〇〇部隊長に掛け合

「ベンザイ」結成を経つてのどもさげよと叫ぶ隊員の聲は、全島にひびき渡るばかり

★表紙

偽旗の命中華は、偽旗自體との距離の二乗に逆比例するといふ。従つて偽旗の割合は、敵軍の中をできるだけ低空に下りるなり、急降下機を数行しなければならぬ。文字通り海空すれぬにまで下りる危険と困難とを伴はねばならぬ。しかしわが海軍は、日の出前や日没後の一帯やりにくい時にあの大戦果をあげたのである。こゝに見る海軍の偽旗は、はたして何を攻撃にゆくのであらう。敵の基地であらうか、敵艦隊であらうか。

海軍の偽旗部隊

寫眞週報 昭和十九年一月十五日 第... 郵政特許... 昭和十九年一月十五日 毎週 印刷局印刷



よやくあたる
弾丸切手
 一枚二円一で一等千円

第二十二回 出賣 日一月一日 十五日
 抽籤 日十二月一日 十五日
 割當 金率 増籤
 一等千円 二等四百円 三等五百円 四等千円 一枚に一枚

抽籤の済んだん切手は五枚以上とまて郵便局へお出しの上、特別据置貯金。書引と換へて下さい。

寫眞週報
 (無断転載)

昭和十九年一月十五日印刷局發行
 印刷局
 東京市田町一丁目
 電話 〇三三三

所 達 申	價 定
全国各地官報 週報普及部 (各都府県支店) 書店・書賣店 新聞販賣店	一部十銭 (送料一銭) ▲特設の場各は 其の都府県に依 る地域は送料依 共一部十九銭 ▲金より差額を申 受けます

本誌掲載の寫真中、
 影者名或ひは提供者名
 を特記しては提供しな
 ざるは時法人寫真協
 の製法によるものとす
 又、海軍省承認第五
 二四一號です

本誌を回覧に
 本誌を、隔紙や職場
 へ回覧する等、出
 来るだけ有効に御利
 用下さい
前線慰問にも
 またお読みになつた
 ら本誌を前線慰問に
 送りませう。送料は
 内地と同様に封あ
 るひは開封して第
 三種と明記すれば
 一部一銭です

印刷局印刷發行

印刷局製 A4規格定規はさみの製本